

キャッシュカードの異常取引を早期に発見する

不正出金監視システム

偽造・盗難カードによる不正出金及び振り込め詐欺の社会問題化

偽造・盗難キャッシュカードによる、預金等の不正な出金は年々減少傾向にあるものの、未だに被害が発生しており、被害総額は平成20年度（警察庁調べ）で、約8億3200万円にのぼっています。また、振り込め詐欺については依然として高い水準で被害が発生しており、被害総額は平成20年度（警察庁調べ）で、約275億9500万円にのぼっています。

これを受け金融庁は、各金融機関に対して、「異常取引を早期に顧客に通知するための仕組みの導入」等に取り組むことを要請しています。

不正出金監視の処理概要

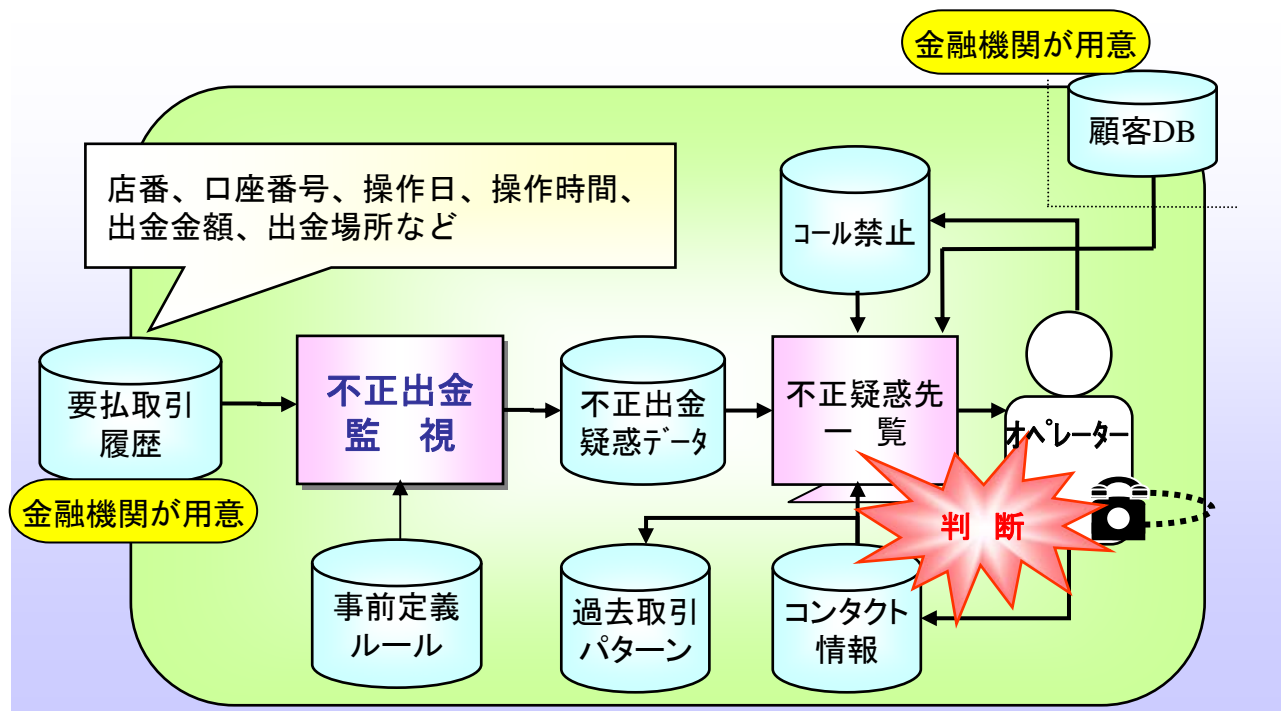
Point1. スコアリング機能による疑惑取引の抽出

要払取引履歴から、事前に定義したルールに当てはまるものをスコアリングしてピックアップし、不正出金疑惑取引として優先順位付けして一覧表示します。

Point2. 過去の取引パターンの保持、顧客属性の表示で管理者の判断を支援

ピックアップした不正出金疑惑のリストを、対象顧客の過去の取引パターン（取引履歴そのものも含む）、コンタクト情報、コール禁止設定と共に画面に表示し、管理者・監視オペレータの迅速な判断を支援します。

不正出金監視の処理イメージ（電話による確認）



■ スコアリング機能と判断支援機能

●事前定義ルールによる条件抽出とスコアリングによる順位付け

- ・顧客ごとに取り履歴を集約し、監視対象条件を自由に設定することが可能
【集約情報例】 連続取引日数
出金額合計
特定端末取引
エラー取引情報 など
- ・階層（金額、時間など）ごとに重み付け（スコアリング）し順位付け

●シミュレーション機能の提供

- ・事前に定義するルールはシミュレーション機能により実データ検証が可能

●判断支援機能

- ・取引履歴に加え、顧客属性等を表示しオペレータの判断を支援
- ・コンタクト情報を保存し、次回以降の判断を支援
- ・コール禁止設定により、案内不要先等の管理

●振り込め詐欺の検知に対応

- ・取引履歴からのパターンマッチングにより振り込め詐欺疑惑先を抽出
- ・継続した監視の設定、及び監視対象から除外する設定が可能

■ 管理者が異常取引を1台のパソコンで即時に判断

画面に表示される「不正出金疑惑取引」一覧表の情報で異常性の一次判断を支援し、顧客属性と過去の取引パターンから異常性の二次判断を支援します。

【従来の課題】

- ・バッチ出力された高額取引一覧表などをもとに異常取引を特定
- ・情報系端末および勘定系端末を駆使して取引の異常性を判断
- ・お客様とのコンタクト結果管理は別システムで管理
- ・異常取引判断は実務経験の豊富さ、人間心理の推察力等の高度スキル必要



【導入効果】

- ・不正出金疑惑取引の一覧表示から顧客属性や取引パターンの詳細情報表示
- ・お客様とのコンタクト情報の登録・照会を1台のパソコンで実現
- ・不正出金疑惑への対応のスピードアップ向上

■ データ取込機能 【オプション】

不正出金監視システムでは、要払性取引履歴、顧客・口座情報があらかじめ、RDB化されていることを想定していますが、オプション機能により、不正出金監視サーバ内へのロードも可能です。